

2017年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3年

留学先：ドイツ デュッセルドルフ大学

留学期間：2017年4月～2018年2月

ドイツ留学を通し、日本にいる時よりも自分と向き合うことができたと感じます。語学の向上はもちろんですが、それ以外にたくさんの学びがありました。日本で当たり前に行えることが一歩外に出てみると難しく、悔しい思いもありましたが、助けを求めると必ず力を貸してくれる人が周りにいました。自分一人で行えることは限られていると感じると同時に、周りの人の力を借りることで可能性は広がるということ、諦めることも時には必要であるなど多くのことを学びました。物事を行うときに、想像で失敗や成功を考えずにとりあえずやってみることが大切です。

また、ドイツで生活をし、日本人は周りからの目を気にしすぎており、また他の人の人生に干渉しすぎているのではないかと感じました。他人同士、自分自身の人生というものは本来自分がしたいようにすべきであるのにも関わらず、いつの間にかプライベートよりも仕事が生活を支配しすぎてしまうことや、他人からの目や言葉を気にしすぎてしまい、自分のしたいようにできないということが日本ではドイツに比べると多いのではないかと考えました。ドイツでは、昼間から仲間同士でお酒を飲む大人の姿や、平日にベビーカーを押す父親の姿を多く見かけました。どういう生き方を良いと考えるかは人それぞれですが、日本の生活の様子を当たり前であると思わずに、日本以外のものを知り、より広い視点から物事を考えることができるようになったことは、自分にとって本当によかったと感じています。3年生の1年間をドイツで過ごすということで、日本にいる人たちはインターンや就活を始めたりすることから、最初は少し不安がありました。しかし留学を終えた今なら、私は私、他人は他人と考えることができます。もっと自分の生き方に自信を持ち、自分の気持ちに素直にこれからも生きていきたいです。ドイツ留学で感じたことや学んだことは、これからの私の人生で非常に貴重なものとしてあり続けると感じます。どんなことがこれから起こっても、留学生生活を思い返せば必ずなんでも乗り越えられるという自信ができました。

ドイツ生活を経て、電車が正確なことや喫煙所があり街中がクリーンなこと、24時間営業のお店があることなど今まで当たり前と思っていた日本のあらゆるものは本当にありがたいものであるのだと感じることもできました。また、あまり人々がけんかしている様子も見かけませんし、電車やバスなどは非常に静かです。ドイツでは、死なない限りは大丈夫という精神でいたので、これからも何事もチャレンジして自分自身を向上させていきたいです。